



# 東京スープとブランケット紀行

Tokyo, Soup, Blanket and Travelogue

## 対談 紀行 2016紫陽花篇

転がしたり、迷ったり、眺めたり、そして、東京と話したい。

生まれながらにして持つ地図は、  
やはり江古田を指していた。

このプロジェクトが生まれた江古田から出て、いくつかの土地の「あとさき」を見てきました。  
東京をぐるりとめぐってみると、江古田がスタートでありゴールなのではないかと気づきました。

日 時：平成28年6月12日(日)14:00~17:00

※入場無料 受付開始・開場は13:30~

※先着20名(要事前申込・席に余裕がある場合は当日も受け付けます。)

会 場：アーツカウンシル東京ROOM302(アーツ千代田3331)

主催：東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、一般社団法人指輪ホテル

羊屋白玉が中心となり始まったアートプロジェクト「東京スープとブランケット紀行」も3年目。新年度はじめのリサーチプログラム「江古田スープ」では、じっくりと江古田市場の跡地やその周辺を歩き回り、閉場後も変わらずに営まれる商店街の様子を眺めました。今回の「対談紀行」ではゲストに江古田のお店の店主、安藤仁美さんと、江古田の外から美術家の小山田徹さんをお迎えして、東京スープとブランケット紀行のこれまでの活動に触れながら、プロジェクトのテーマである「終焉」のその後には何があるのかを一緒に考えてゆきたいと思います。「東京」のいまとこれからに関心のある方、ものごとの「終わり」に興味のある方など、どなたでも参加いただけるトークイベントです。ぜひお越しください。

□ 出演



羊屋白玉 (ひつじや しろたま)

1967年北海道生まれ。明治大学中途退学。「指輪ホテル」芸術監督。東京スープとブランケット紀行ディレクター。劇作家、演出家、俳優。代表的な作品は、2001年、ニューヨークでの同時多発テロの直後、ニューヨークと東京をブロードバンドで繋ぎ、同時上演した「Long Distance Love」。2006年北米ヨーロッパをツアーした「Candies」。2012年ブラジル4都市をツアーした「洪水」。2013年瀬戸内国際芸術祭では海で、2014年中房総国際芸術祭では鉄道で上演した「あんなに愛しあったのに」。2006年、ニュースウィーク日本誌において「世界が認めた日本人女性100人」の一人に選ばれ、表紙を飾った。  
<http://www.yubiwahotel.com>



小山田徹 (こやまだ とおる)

1961年に鹿児島に生まれる。京都市立芸術大学日本画科卒業。美術家。1998年までパフォーマンスグループ「ダムタイプ」で舞台美術と舞台監督を担当。並行して「風景収集狂舎」の名で様々なコミュニティ、共有空間の開発を行い現在に至る。2009年より、京都市立芸術大学で彫刻の教員を務め、現在、同大学美術学部教授。大震災以降の女川での活動を元に出来た「対話工房」のメンバーでもある。



安藤仁美 (あんどう ひとみ)

1988年長野県生まれ。早稲田大学中途退学。2013年練馬区江古田に「がらくたやネバーランド」をオープン。国籍・年代は完全無視、店内には独断と偏見により選ばれた中古雑貨たちが並ぶ。2014年より江古田の街を舞台にした小説「たぬきたん(奇譚)」を執筆、無料配布している。生活を営むことが好き。その傍ら、生活にこれといった必要のないものを売っている。

□ 対談概要

日時：平成28年6月12日(日)14:00~17:00  
※入場無料 受付開始・開場は13:30~  
※先着20名(要事前申込・席に余裕がある場合は当日も受け付けます。)

□ 予約受付

Web：http://soupblanket.asia/taidan/2016jun.html  
e-mail：ticket@soupblanket.asia

□ お問い合わせ(東京スープとブランケット紀行事務局)

電話：070-1260-4600 e-mail: sec@soupblanket.asia

□ 会場

アーツカウンシル東京 ROOM302(アーツ千代田 3331)  
東京都千代田区外神田 6-11-14 3F



※お寄せいただいた個人情報は厳重に管理し、本事業の運営およびご案内にのみ使用いたします。 ※内容は変更になる場合があります。

【東京スープとブランケット紀行】とは

statement: ディレクター羊屋白玉の言葉

わたしにとって東京は、とっても長いこと、未来都市だった。今は、遺跡の街を歩いているように思う。どちらも美しい調べだが、組曲「東京」の楽譜は、いまや、生活者であるわたし、演奏者であるわたし、が追いつかないほどの加速記号でいっぱいだ。この楽譜に、泉のような小休符をいくつか、記したい。

project: 東京(住)+スープ(食)+ブランケット(衣)+紀行(微)

生活に関わるささやかなテーマ。そのいくつかを同時進行で取り扱ってゆくと、各テーマが影響し合い、分裂と統一を繰り返しながら、やがておおきなひとつのテーマに辿りつく。その最初のいくつかのテーマタイトルがこの4つです。

東京 一箱

夢の一箱を、東京に転がす。

江古田 スープ

東京のラビリンスな交差点、江古田で迷う。

青ヶ島 ブランケット

青色のヤポネシアアイランドから、東京を眺める。

対談 紀行

転がしたり、迷ったり、眺めたり、そして、東京と話したい。

この4つのプロジェクトが、転がりながらも成就する時、わたしたちの現前に広がる世界が一瞬止まり、それまで費やしてきた時間のプロセスが立体的に問いかけてくる。そんなアートプロジェクトを目指しています。

people: 運営しながら創作するわたしたち

ディレクター：羊屋白玉 アシスタントディレクター：伊藤馨 チーフアドミニストレーター：宮原清美  
アシスタントアドミニストレーター：糸山裕子 齋藤優衣 デザイナー：草柳亮 テクニカルディレクター：糸山義則 フォトグラファー：中澤佑介

